

磯 智明 (いそ ともあき、1966年 -)

日本のテレビプロデューサー。日本放送協会制作局第2制作センタードラマ制作部チーフプロデューサー。

文化庁芸術祭優秀賞、ギャラクシー賞、モンテカルロ・テレビ祭優秀賞、アジア太平洋放送連合賞等受賞。

東京都出身。東京都立国立高等学校を経て、1990年に一橋大学社会学部卒業。

大学在学中は映像制作のサークルで活動し、矢澤修次郎ゼミナールに参加。

同年、日本放送協会入局。NHK名古屋放送局に配属。

1994年日本放送協会制作局ドラマ番組部助監督。

演出を経て、2005年からプロデューサー。

2007年名古屋放送局制作部プロデューサーに異動。

2010年日本放送協会制作局第2制作センタードラマ制作部チーフプロデューサー。

文化庁芸術祭優秀賞、ギャラクシー賞、モンテカルロ・テレビ祭優秀賞、アジア太平洋放送連合賞等受賞。

作家・哲学者の東浩紀は従兄弟。

制作統括をつとめた大河ドラマ『平清盛』(2012年)では皇室に対し「王家」という用語を使った事が物議を醸した。この問題は2012年3月29日に第180回国会参議院総務委員会にて当時野党だった自民党の片山さつき参議院議員が「批判があつて、このプロデューサーの磯さんという方が～なぜもう少し慎重に、また宮内庁にもお聞きになったのかと、これは皇室にとっては先祖の呼称ですから非常に重要なんで」と当時NHK会長の松本正之に対して質疑を行った。

演出

春よ、来い (1994年) 毛利元就 (1997年) 一絃の琴 (2000年)
トトの世界 (2001年) 君を見上げて (2002年) 少年たち3 (2002年)
こころ (2003年) ねばる女 (2004年)
日本の、これから番組内ドラマ「幸福2020」(2005年) マチベン (2006年)
風林火山(NHK大河ドラマ) (2007年)

制作統括

監査法人 (2008年) ※プロデューサー兼

最後の戦犯 (2008年) リミット・刑事の現場2- (2009年) 気骨の判決 (2009年)

鉄の骨 (2010年) 15歳の志願兵 (2010年) 心の糸 (2010年)

平清盛 (2012年) 黒猫、ときどき花屋 (2013年) 死刑台の72時間 (2013年)

珈琲屋の人々 (2014年) プラトニック (2014年)

チョコレートTV (2014年) ※文化庁芸術祭参加作品[9]

昨夜のカレー、明日のパン (2014年) ラギッド! (2015年)

デザイナーベイビー - 速水刑事、産休前の難事件 - (2015年)

富士ファミリー (2016年) スニッファー 嗅覚捜査官 (2016年)

この声をきみに (2017年) なつぞら (2019年) 赤ひげ3 (2020年)

十三人の刺客 (2020年) うつ病九段 (2020年)

明治開化 新十郎探偵帖 (2020年・2021年) 小吉の女房2 (2021年)

あなたのそばで明日が笑う (2021年) どうする家康 (2023年)